

「最後の文人画家」  
富岡鉄斎旧邸宅を再整備  
文化を活かした価値創造の拠点に

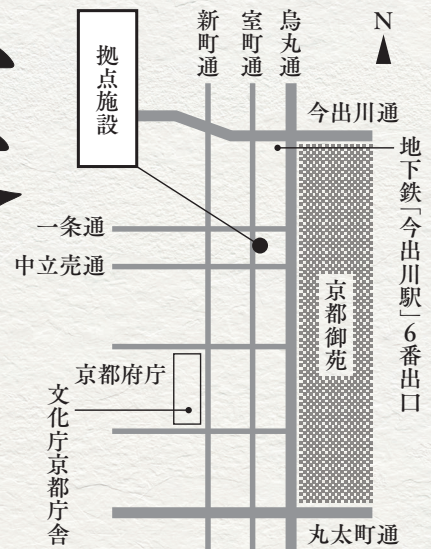


完成!

# 文化と産業の 交流拠点

文化・芸術と経済が連携し、京都の産業振興や新たな価値の創造につながるため、京都府協力のもと整備を進めてまいりました「文化と産業の交流拠点」が、1月末に竣工しました。富岡鉄斎旧邸宅の歴史的価値を引き継ぎ、今春より、文化と産業の交流・連携、情報発信の拠点としてスタートします。

※本事業は文化庁京都移転支援ならびに京都商工会議所創立140周年記念事業の一環です。

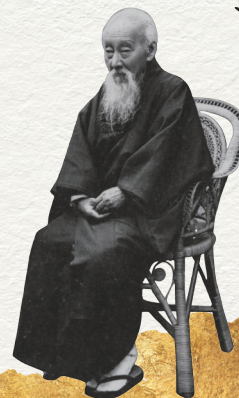




# 文化と産業の交流拠点

完成した施設は、明治・大正期の文人画家で儒学者でもある富岡鉄斎の旧邸宅を再整備したものです。2012年まで京都府議会議員公舎として使用されていた建物・土地を京都府から無償で貸与を受け、建物の歴史的価値を活かし、可能な限りもとの部材を再活用することで旧邸宅にあった茶室や画室等、和の趣を保存・再生しました。さらに文化と産業の交流や情報発信に活用できる洋のゾーンを

新たに設けています。2月5日の竣工記念式典には、都倉俊一文化庁長官をはじめ約50名が出席。関係者への感謝状贈呈のほか、茶室のお披露目を兼ねた呈茶席で出席者をもてなしました。各種会合や展示会等での皆様のご活用をお願いいたします。



鉄斎さんの家を見てみよう



写真提供：清荒神清澄寺 鉄斎美術館  
本サービスに関する著作権等を含む一切の権利は、各権利者に帰属します。

©KYOTO'S 3D STUDIO Inc.

ここに注目  
文人趣味がうかがえる画室の  
地袋棚の上の円窓や床脇の八角窓、  
茶道口から見える  
稲妻型垂れ壁等も再現した。

## ③ 画室

鉄斎が来客との清談を交わし、多くの作品を生み出した画室。当時の画室名「無量寿仏堂」は、鉄斎の持仏である阿弥陀如来に由来。鉄斎下絵による彫刻が施されている欄間や襖の引き手の一部には、当時のものを再利用している。



## 庭園



京都府造園協同組合の協力により新たに整備した。鉄斎であればどのような樹木を選んだかと思いを馳せ、遺愛の樹木や石材等の一部も再利用した。石灯籠と躰は、八幡の松花堂にあったものを、鉄斎が珍しく数百円を投じて骨董屋から買い、大切にしていたものと思われる。

鉄斎翁の足跡を未来へと  
紡ぐ「和」のゾーン

富岡鉄斎をさらに  
知りたい方は…

「没後100年 富岡鉄斎」  
会期：4月2日(火)～5月26日(日)  
会場：京都国立近代美術館  
(左京区岡崎)



招待券プレゼントは  
P28をご覧ください。



参考文献

中村利則「町家の茶室」(淡交社 1981年)  
「鉄斎さんと京都をあるく」(『目の眼』2019年2月15日号)

京の伝統工芸を  
随所に取り入れた  
光あふれる  
「洋」のゾーン

② 会議室 2

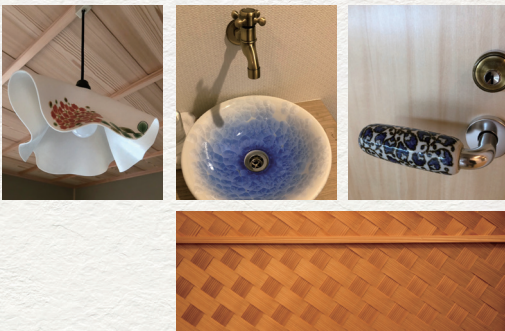


ミニキッチン併設した小会議室。ピックアップチェアを設置しており、個展等も開催可。鉄斎の作品集や関連図書等もご覧いただける。



① 会議室 1

会議や展示会等多目的な用途に活用できるスペース。最大60名までのイベント等に対応。



ここに注目

玄関の網代天井や手洗鉢、照明器具等随所に京都の伝統職人の技が活かされている。

DATA

- 所在地 / 京都市上京区室町通一条下ル薬屋町429
- 敷地面積 / 約1,267㎡(約383坪)
- 延床面積 / 約411㎡  
本館(仮称)約243㎡ 多目的ゾーン(洋)・旧富岡鉄斎邸ゾーン(和)  
別館(仮称)約168㎡ 文化庁利用施設(非公開)
- 建物構造 / 本館(仮称)木造・平屋建て  
別館(仮称)鉄筋コンクリート造・平屋建て
- 設計・施工監理 / 本館 株式会社京都空間研究所  
別館 岸和郎 + ケイ・アソシエイツ
- 施工 / 株式会社藤木工務店 京都支店
- 庭園設計・施工 / 京都府造園協同組合
- 工期 / 令和4(2022)年8月~令和6(2024)年1月  
※施設の公開日や利用料等は、4月中旬以降に本所ホームページでご案内いたします



③ 茶室「福寿庵」

小川流煎茶の家祖 小川可進の旧宅の遺室で、炉は切られていない。さまざまな流派で利用可能。庵名は大徳寺の高田明浦管長猊下が揮毫し、指物師の岩木秀樹氏が扁額に仕上げた。

④ 和室

既存の押入を水屋仕様に転用し、多人数の茶会等にも対応できるようにした。

